



小説

船戸与一

下関市
(1944～2015)



撮影者・吉岡一生（下関市立近代先人顕彰館所蔵）

【著作】

- 『猛き箱舟』（昭和62・集英社）
- 『蝦夷地別件』（平成7・新潮社）
- 『虹の谷の五月』（平成12・集英社） ほか

【閲覧情報】

下関市立近代先人顕彰館（田中絹代ぶんか館）
において、ほぼすべての作品を閲覧可能。

船戸与一（本名 原田建司）は、昭和十九年（一九四四）二月八日、下関市後田町に生まれ、山口県立下関西高等学校を卒業した。早稲田大学法学部に入学し、探検部に所属。ここで世界の辺境や危険地帯の歩き方を学び、これが後の作家人生に大いに反映されることとなる。

卒業後に映像プロダクションを設立し、フリーのルポライターとしても活躍。「外浦吾朗」の筆名で国民的人気漫画「ゴルゴ13」（画・さいとう・たかを）の原作を手掛けた。作家への転機は昭和五十二年（一九七七）、講談社の編集者が豊浦志朗のルポ『叛アメリカ史』（ブロンズ社）に目を留め、小説を書かせてみたいと再三にわたるスカウトをかけたことによる。最初は本気にしていなかったが、編集者の熱意に負けて書いた作品が『非法法員』（講談社）として上梓され、作家「船戸与一」が誕生した。

船戸は紛争地帯や未開の地を積極的に踏査し、次々と作品に結実していった。日本にとどまらず世界の実情を踏まえ、闘う反骨の男たちを描く雄渾な筆致は、文芸の分野において「冒険小説」というジャンルを確立したとも評されるほどである。

『山猫の夏』で第六回吉川英治文学新人賞、第三回日本冒険小説協会大賞を受賞、『砂のクロニクル』で第五回山本周五郎賞、第十回日本冒険小説協会大賞を受賞、『虹の谷の五月』で第一二三回直木賞を受賞。また平成二十六年（二〇一四）にはそれまでの功績を認められ、第十八回日本ミステリー文学大賞を受賞した。

平成二十一年（二〇〇九）、六十五歳で胸腺癌が発見されたが、「余命一年」の宣告の中、当時執筆していた大作『満州国演義』を書き上げるために全力を集中した。その完成とともに、平成二十七年（二〇一五）四月二十二日、七十一歳でその生涯に幕を下ろした。

（文・吉田房世）



船戸与一書斎写真（小学館提供）

『満州国演義』（全9巻／新潮社刊）を執筆中の書斎にて、歴大な資料とともに。（2011年2月／撮影者・太田真三）



直筆原稿『満州国演義』

（写真／下関市立近代先人顕彰館所蔵）

船戸作品は長編が多い。この作品は7500枚にも及ぶ超大作となった。